



HOSEI Global challengers Camp 2025

将来に点数をつけるな！～社会と自分の未来を見つめ直す5日間～

実施レポート

これからの時代を生きる中高生34人が、全国から集まり、自分の将来や社会との関わりについて深く考える5日間となりました。2025年のプロジェクトテーマは「これからの社会に必要な学びの環境(大学)」でした。本プログラムでは、大学入試や偏差値といった枠にとらわれず、「理想の社会とはどんな社会か」の問いから始め、「その社会の中で自分はどうありたいか」「そのためにどんな学びが必要か」を問い直すことを目的に、さまざまな講義や対話の機会が用意されました。

また、参加者同士のディスカッションや英語でのプレゼンテーションを通じて、グローバル人材に必要なスキルを実践的に学びました。プログラム中は法政大学の学生がメンターとして参加者たちをサポートし、5日間大学生の先輩と共に大学で過ごすことで、参加者たちが自身の将来や進路を真剣に考えるきっかけを提供することができました。

1. 実施概要
2. スケジュール
3. フォトギャラリー
4. アンケート・参加者・奨学生の声
5. 学生メンターの声と参加者からのアンケート
6. 動画等

概要

1, 期間

2025年8月20日～24日

2, 開催場所

法政大学市ヶ谷キャンパス

3, 参加人数

34名

※参加費

宿泊参加：11万円

通学参加：8万円

※全額奨学生：9名

※地方奨学生(5万円免除)：2名

4, 事前選考

有り(エッセイ及び面接)



5, 応募地域

福島県、茨城県、東京都、神奈川県、愛知県、岡山県、福岡県、宮崎県、沖縄県

6, 参加学校

福島県立磐城桜が丘高等学校、明秀学園日立高等学校、東洋大学付属牛久高等学校、大妻高等学校、大妻中野高等学校、かえつ有明中学校、かえつ有明高等学校、駒込高等学校、成城学園高等学校、東京学芸大学国際中等教育学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、文京学院大学女子高等学校、法政大学中学高等学校、山脇学園中学校、山脇学園高等学校、法政大学第二高等学校、横浜創英高等学校、愛知県立刈谷高等学校、岡山県立玉島高等学校、福岡雙葉高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、昭和薬科大学附属高等学校

7, プログラム内容

今回のプレゼンテーションテーマは「これからの社会に必要な学びの環境(大学)とは」でした。5日間のプログラムでは、法政大学総長のDiana Khorの基調講演より始まり、世界7か国で教育に携わる若者達、国際機関等グローバルな環境で活躍するGlobal Challenger達から、目指す社会やその中での自身のキャリアをイメージしました。その社会での理想の学びの環境を実現するために、どのような課題があり、その課題を解決するために自分たちは何をするのかをグループに分かれて立案をしました。その過程で、民間企業の新規事業担当者から事業立ち上げの具体的な方法や、英語プレゼンテーションスキルを実践的に学びました。最後は、多国籍の審査員に加え100名近くの聴衆の前で、英語でプレゼンテーションを行いました。

スケジュール

Day.1

- ✓ オリエンテーション
- ✓ キーノートセッション「総長が考える理想の大学と社会の関係性」
Diana KHOR 法政大学総長 グローバル教養学部教授
- ✓ メンターセッション
- ✓ プロジェクトの進め方 ウェルカムパーティー

Day.2

- ✓ **Challengers Talk** 市川太一 氏 World Road CEO × 世界7か国のDreamers
- ✓ **パースペクティブディスカッション①「不確実性の高い社会を乗り越えるリーダーになるために、大学での学びとは？」**
河本孝志 氏 Global Samurai Advisory,LLC CEO
清水真一 氏 株式会社Ridilover 事業開発チーム
中村麻由 氏 アスツー東京株式会社 プリンシパルデザイナー
並木愛 氏 WFP国連世界食糧計画 バングラデシュ事務所
- ✓ **キャンパスツアー 法政大学での学び**
- ✓ **グループワーク**

Day.3

- ✓ **パースペクティブディスカッション②「高校が生徒に伝えるべき、本当の大学進学の意味」**
福岡 賢昌 法政大学グローバル教養学部学部長 教授
長村 裕 氏 福岡雙葉学園 学園教育改革推進本部長 兼 特命教頭
参加生徒2名(実施時に挙手にて登壇者決定)
- ✓ **新規事業立ち上げ講座**
桐畑誠也 氏 株式会社東京ドーム 新規事業室 係長
- ✓ **Presentation Skills in English**
Mark Birtles 法政大学グローバル教養学部 専任講師
- ✓ **グループワーク**

Day.4

- ✓ **グループワーク**
- ✓ **ランチセッション「海外に飛び出すには」**
中山智雄 氏 Chief Global Partnership Officer 文部科学省 トビタテ！留学JAPAN
- ✓ **グループワーク/ English check**
Eric Chong 氏

Day.5

- ✓ **Final Presentation**
審査員： Diana KHOR 法政大学総長 グローバル教養学部教授
福岡賢昌 法政大学グローバル教養学部 学部長 教授
Marwa Elgezery 氏 Head of Sakura International School Elementary School
- ✓ **Closing Party**

Photo Gallery

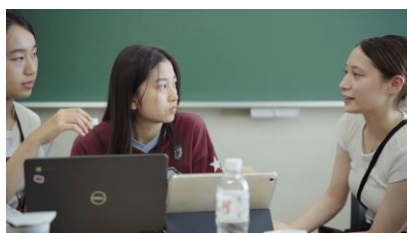


Photo Gallery



参加者の声

キャンプ全体の満足度は？

96.3%が「とても満足・満足」と回答

HGCCでは全国の学生と交流し、法政大学の学生や教授と意見交換をすることで、自分にはなかった視点を知ることができました。また、たくさんの講座やグループワークを通じて、自分の意見を相手に伝える力を伸ばすことができました。このキャンプでは多くの人から刺激を受けました。この経験を活かして、積極的に英語で発言したり、しっかり自分の意見を伝えていきたいと思います。

プレゼンに向けてこんなにもじっくり話し合うというのを今までに経験したことがなく、完成するまでに、話し合いがうまく進まなかったり、アイデアが思い浮かばなかったりと様々な困難があったが、それらを経験して新たな視点を得ることができ成長できたから。私自身、普段は積極的に意見を言うことよりも、相手の意見を聞いてそれに賛成する方が多かったが、この5日間で積極的に自分の意見を上手く言語化して伝えられるようになった。

将来どのような大学を選ぶべきかがわかった気がしたので、とても満足しています。また、世界中で活躍されている方々と個別にお話しする時間を設けていただいたおかげで、自分の興味のある分野について直接考えを伺うことができ、さらに深く自分の探究を進められたからです。

今回学んだことを今後どう活かしていきたいですか？

ゲストの方のセッションでは、自分にはなかった視点や、知識を新たに取り入れることができ、自分の進路を考える上での参考になるようなことをたくさん吸収することができたことに加え、グループワークでは、考えがまとまっていなくても積極的に自分の意見を言うことや、今何について考え、話し合っているのかを明確にすることが大事だということを学んだため、今後話し合いを行う際や、グループで何か1つのことを作り上げていく際に今回経験した苦労から学んだことや、反省を活かしていきたい。

今回のキャンプでは行動力がとても大事だということを学びました。世界で活躍されている方々のお話を伺う中で、共通しているのは「自分の夢を実現するために具体的な一歩を踏み出している」とことです。私も普段から少しでも興味のあることがあれば迷わず挑戦しようと思いました。

何か物事を考えたり、問題を解決しようとする時は、いつも自分ならどうするか、自分ならどうして欲しいかを考えていたが、今回のキャンプに参加することで自分と全く違う意見の人や、同じだけれども理由が違う、理由が同じだけれども意見が違う人などたくさんの人に会えたので、もっと多角的な視点から物事を考えることの重要さや、考え方に繋がるヒントを学べたと思うので、しっかりと今後も忘れずに活かしていきたいと思った。

井の中のかわずのままではだめという言葉が心に残っていて、すごく納得しました。私は今回のキャンプで東京に出たことにより、新しい環境と最高の仲間たちと出会うことができ、強く刺激を受けたから、これからももっと広い世界に飛び出したいと思いました。だから、これからも自分からたくさんの活動に積極的に参加したいと思ったし、新しい出会い、新しい環境に飛び出すことをもっと楽しみたいと思いました。

参加者の声(法政大学について)

法政大学への関心度は高まりましたか？

96.3%が「とても高まった・高まった」と回答

正直に言うと法政大学への進学は全く考えたことがなかった。でも、学生主体のイベントが多いことや、キャンパスの広さ、綺麗さ、生徒への支援サービスなどを見て、法政大学に行ってみたいなと漠然だけれども思うようになった。これからの制度にもよるが、法政大学への進学も視野には入れたいと思った。

メンターの方々から法政大学のことを詳しく教えていただき、関心が一層高まりました。私が興味を持っている学部のことを教えていただき、さらに他学部のことでも知ることができて、とても良い経験になりました。HGCCは法政大学で学びたいと思っている私にとって、とても貴重な時間でした。

元々法政大学を志望していて、興味はあったがネットで調べたり、インスタで見た情報ばかりだったので、実際に学生や教授の方と会って話してより法政大学に入学して自分の道を切り開いていきたいなと思った

法政大学のイメージはGマーチでなんとなく文系が強いイメージだったのですが、ものすごくグローバルで生徒1人1人の可能性を伸ばしていく大学なんだなと今回のプロジェクトを通して思いました。

私は今年高校三年生の年で、法政大学を第一志望にしているので、ある程度法政大学のことは知っていました。法政大学の第一印象は多様性あふれる自由な校風でした。でも実際にこの五日間を通して変わりました。私が以前思っていたよりも多様性や自由を大切にしている学校だと感じました。特に、ダイアナ総長とも直接お会いできる機会もあり、法政大学のトップがさまざまなバックグラウンドや指針を持っていることを知り、すごく良い学校なのだと思います。さらに法政大学に通いたくなりました。

グローバルという観点から法政大学のイメージに変化はありましたか？

88.9%が「とても変わった・変わった」と回答

法政大学は法学部などが有名なイメージがあったため、グローバルなイメージも特になかったが、今回のキャンプでメンターの皆さんの英語力や、法政大学での学びを見て、印象が変わったから。

グループワークや講義を受ける中で法政大学が行なっていることを知る機会がたくさんありました。メンターの方が、「法政大学にはこういう制度もあるよ」と教えてくれたものもたくさんあります。メンターさん自身が、特殊な交換留学を今月末からはじめみたいでそのお話もしてくださいました。私が今まで聴いたことのない制度の交換留学で、グローバルな異文化交流の機会にすごく長けているのだと思いました。

法政大学を今まで調べていなかったため、GISという学部の存在を初めて知った。全部授業が英語だということにすごく驚いたし、すごく面白そうだった。また、留学制度も豊富ということを知り、グローバルな面の強い大学だということを知った。

奨学生の声①

学校・学年(沖縄県)昭和薬科大学附属高等学校 2年生

参加しようと思った理由はなんですか？

理由は大きく分けて二つあり、一つ目は、様々な価値観や意見を持った人たちと交流したいと思ったからです。沖縄に住んでいると、他の都道府県と交流する機会は制限され、似たバックグラウンドを持つ人たちとしか交流できないため、新しい価値観に出会う機会はごく僅かです。そのためこのキャンプに参加することで、自分と全く違う環境の人たちと交流し新しい価値観を築きたいと考えました。

二つ目は、人前で英語を話す機会を得るためです。私の学校の英語の授業は、読み書きといった共通テストで使うための英語を勉強します。そのため英語を用いて他人と会話することや、英語を使用して発表するという機会はごく少数です。そのため、このキャンプを通して英語を使用したコミュニケーションやプレゼンテーションを行うことで、自分の英語の実践的なスキルアップにつなげたいと思い参加しました。

参加を通して得たものありますか？

まず一つ目に、自分の価値観が広がりました。例えば雑談をしているときに、オーストラリアに留学した話や、イギリスに旅行に行った話、アメリカやネパールに住んでいたころの話など、私の周りの人にはないような経験をしている人たちがたくさんいて、いろいろなお話を聞きました。電車は乗り換えるのが当たり前で、通学に一時間はざらにあるということも聞いてびっくりしました。

また、考え続ける力も手に入りました。私たちの班は、ずっとブレインストーミングを行っていて考えるのが嫌になるほど意見を出していました。でも、時々出てくるびびとする意見に気づかされ、新しい方向に考えが進んでいくのがすごく楽しく、考え続けるための忍耐力が手に入ったと思います。

この経験を今後どう活かしていきたいです？

私はこのサマーキャンプを通して、自分とは全く違う当たり前がある環境で育っている人がたくさんいるということを学びました。今まで何かについて考えたり意見を出すときは自分や身近な人を基準にして考えていたけれど、もっと視野を広げてこの人ならこう思うな、この人はこういうところに困りそうだな、ということも考えていけるようにしたいです。また、話し合い中にみんなに納得される意見を出そうと考えるのではなく、自由に意見をたくさん出す大切さも分かったので、グループワークの時はプレストを積極的に活用していきたいです。

奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

私がこのキャンプの案内を見たとき、参加を決めた一番の理由が全額免除の存在でした。こういう機会はたくさんあるけれど、どれも県外で参加するには高い飛行機代や宿泊費がかかるため、親に参加したいといえませんでした。でも奨学金の存在を知って親に相談し、奨学生なら参加してよいと許可をもらうことができました。また、奨学生に選ばれたからには人一倍積極的に頑張ろうと思い、グループ内での発言や周りの人との会話など特に意識することができました。このように奨学金の存在は、私のキャンプへの参加から参加後の取り組み、責任感に大きく影響したと思いました。



奨学生の声②

学校・学年(福岡県)福岡雙葉高校 2 年生

参加しようと思った理由はなんですか？

I was eager to participate in the Global Challenge Camp at Hosei University because I am currently exploring what I truly want to pursue in the future. I believe this camp will offer me a meaningful opportunity to reflect on my goals and clarify my future direction. During teamwork, I am excited for the opportunities to discuss with my teammates and absorb new perspectives which help me enhance communication skill, as well as leadership. Besides, as someone who is interested in international studies, I hope to expand my worldview and deepen my understanding of global and social issues through this unique program. Furthermore, the final presentation was also one of my goals because I would like to practice my English, as well as gain precious presentation skills.

参加を通して得たものありますか？

During the summer camp, I gained problem solving skills and teamwork cooperation from not only my teammates, but also the teachers and mentors. For example, I learned the importance of teamwork and time management. I didn't imagine that we could do so many things within five days before I came to the camp. On the second day we talked about the project, as well as the plan towards the presentation which surprised me because it was my first time meeting such an efficient group. After that I was so thankful that it is our future planning made our teamwork go smoothly. Through our cooperation, we met a lot of difficulties and lost our goal. Luckily, our mentor and teachers helped us organize our thoughts which contributed to our easy understanding presentation. As a result, I learned that it's so essential for team members to express their ideas and summarize them clearly, leading to creative thinking and team cohesion. Plus, sometimes it is not a good idea to cram all of the information and opinions into one project while facing a short preparation time, deleting something not so crucial and making it easier for both us and audiences will be a wise choice.

この経験を今後どう活かしていきたいです？

What I gained from the summer camp can be drawn on my future life. One thing that I will always remember is that everyone should believe in their future and possibilities, no matter how old you are. Whenever I meet hardships or feel confused about my future, the word reminds me of the hope of my colorful future. What is more, since my high school provides a lot of activities and projects for students, I think nowadays I am able to utilize my communication and problem solving skills, leadership and presentation skills and obtain much more opportunities to develop my ability. Moreover, I gain confidence and leadership through our final presentation which encourages me to be even more natural in front of lots of people while expressing my views.

奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

I was extremely excited when I found out that I had received the scholarship. It not only reduced the financial burden but also gave me strong motivation to attend the summer camp wholeheartedly. Knowing that my efforts were recognized made me feel more confident and determined to make the most of this valuable experience. The scholarship encouraged me to approach every activity with greater enthusiasm and responsibility, reminding me to appreciate this opportunity rather than take it for granted. It also inspired me to challenge myself, interact with new people, and contribute actively to the camp. Overall, the scholarship was not just financial support, but also an important source of encouragement that pushed me to participate with passion and dedication.



奨学生の声③

学校・学年(東京都)都立飛鳥高校3年生

参加しようと思った理由はなんですか？

I always wanted to challenge myself by trying new things. I first knew about this camp through my cousin, who joined last year. After hearing his experience, I started searching for more information, and what caught my eye was its name, HGCC. Living in Japan, I did not have much opportunity to communicate with people from different areas. Most of my friends were either Japanese who had spent their whole lives in Tokyo or international friends who were not very serious about new challenges. In the future I want to work internationally, so I wanted to do something with people with totally different backgrounds and perspectives. I also wanted to live in a new place surrounded by strangers. That is why I decided this camp was for me.

参加を通して得たものありますか？

Throughout this camp, I gained two major things: communication skills and leadership skills. At first, I was very nervous, since I had never experienced being in a completely different place by myself. This camp became a stage to challenge myself and communicate with new people effectively. Although I was nervous and found it hard to start conversations, I pushed myself to talk with others, which helped me improve my communication skills. I also wanted to strengthen my leadership in a multicultural setting, so I focused on how to bring people with different perspectives together. It was difficult at times but also enjoyable. Through these experiences, I realized the importance of creating something from nothing and the value of listening as a leader.

この経験を今後どう活かしていきたいです？

From this camp I gained many valuable things, and one of the biggest realizations was that I still lack leadership skills. By meeting people with diverse backgrounds, I understood the importance of listening carefully to different perspectives and respecting them. In the future, when I have to act as a leader, I will focus more on listening to others rather than only expressing my own thoughts. I also realized how important it is to create an environment where everyone, regardless of their background, can share ideas freely without hesitation. I want to contribute to building such inclusive spaces. Through these lessons, I will continue developing myself so that I can work confidently in international and multicultural settings.

奨学金は参加をどのように後押ししましたか？

This scholarship encouraged me a lot to attend this summer camp. Without it, joining would have been very difficult, since my mother is a single mother and supporting me financially is not easy. Receiving the scholarship gave me not only the confidence to participate but also the motivation to challenge myself by stepping out of my comfort zone and trying many new things. It also made me positive. In camp I always had the mindset that "I was chosen, so I should do as much as I can to make this camp better and meaningful." Overall, the scholarship not only supported me financially but also motivated me to take action, connect with others, and grow through this experience.



メンターの声

加藤 花蓮 スザンヌ 法政大学 グローバル教養学部 3 年生

一言でまとめると、「最高の思い出になった！」と胸を張って言えるキャンプになりました。

今回は前回に比べ、中高生の人数が増え、それに伴って大学生メンターも約2倍となり、より大規模な体制で臨みました。メンターが増えた分、一つの方向にそろえる難しさもありましたが、「どうすれば中高生が楽しみながら学べるか」を常に考え、チームで試行錯誤を重ねて本番に挑みました。

当日、中高生たちはすぐに打ち解け、適応力の高さに驚かされました。講義では、多様な分野で活躍される講師の方々のお話を聞き、自分自身の考えに取り入れながら「理想の学び場」を真剣に議論する姿が印象的でした。宿舎でも積極的に英語や大学について質問してくれる生徒が多く、私自身も一緒に熱中しました。

最終日のプレゼンテーションでは、初日から大きく成長し、堂々と英語で発表する姿に感動しました。感極まって涙する生徒もいて、ここまで心を動かす経験をチームと共につくれたことに大きなやりがいを感じました。

この経験を通して、中高生と共に学び合い、成長を間近で感じられる Hosei Global Challengers Camp の魅力を再認識しました。振り返ったときに「参加してよかった」と思ってもらえていたら、とても嬉しいです。



米山 ちはる 法政大学 グローバル教養学部 4 年生

大学在学中に様々な活動に取り組みましたが、HGCCの学生メンターとしての経験は格別でした。

企画・運営では事前ミートアップや最終プレゼンなどを少人数で担い、責任を持って実施しました。今年度は、昨年の反省を踏まえ私が提案した「メンターによる英語プレゼン企画」を導入し、提案から実現までやり遂げたことは自主性を大きく伸ばす機会となりました。メンタリングでは中高生の意見を引き出し、考えを形にするサポートを行いました。先生でもリーダーでもない立場は難しくもありましたが、心得セッションやキャンプ期間中のメンターミーティングでの共有を通して学んだ「新しい関わり方」は貴重な経験です。

また、社会学ゼミで学んだ知識を噛み砕いて中高生に伝えたことは、大学での学びを教室外で活かした瞬間でした。責任ある運営、挑戦的なメンタリング、学びの実践のすべてを体験できたことが、私にとって大きな成長につながりました。



参加者からメンターへの評価

参加者の96.3%がメンターのサポートについて「とてもよい・よい」と回答

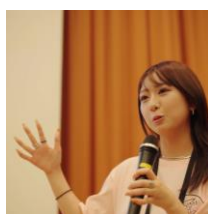
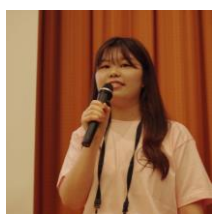
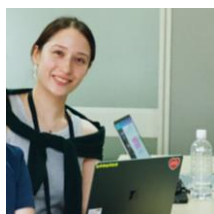
とても支えてくれていて、すごく頼りになりましたし、問いなどを投げかけてくれたり、誰かが少しだらけてしまっているときは切り替えよう！って呼びかけてくれてとても良かったと思います。2日目や3日目くらいにもう少しアドバイスや行き詰まった時にこういう方向に進んでいける？というふうに提案してくれたらもっと良かったと思います！でも本当に素敵な人で、大好きなメンターさんです。

GPAというテーマを決めて作業する時に結局社会がどうやって変えるか私たち何をしたいかがわからなかった時に、メンターがもう一回課題についての問題を書いてくれたことで、みんながどんどん答えを出して最後までスライドをうまく作り上げました。また、最後プレゼンテーションのスクリプトを書く時に、メンターが自分の経験によって一番大切な内容を教えてくれて、スクリプトがもっとわかりやすくなりました。本当に優しくて大好きです！

オンラインミーティングの時からチームを和ませてくれてとても良かったです。困っていたら相談に乗ってくれたり、アドバイスを沢山くれたので前の自分と考え方が変わりました。一人一人に寄り添ってくれたので5日間とても楽しい時間を過ごせたと思います。メンターさんがいたからこそこのチームよりも最高のチームになったと思います。チームのメンターさん以外も沢山話しかけてくれて、相談に乗ってくれました。どのメンターさんも本当にかげがえのない存在になりました。

メンバーが様々なところから来てたため様々な観点の意見が溢れてそれをまとめることが高校生にはまだ難しかったので、メンターさんがみんなの意見をボードに書こうなどと提案してくださり、意見の可視化をしてくれた。他にも大学生目線での意見をくれたりした。助言などはしてくれるけどあくまでも私たちの意見を基盤として行ってくれるのでしっかりとそれぞれの意見が反映されている内容にすることができた。

意見が飛び交いすぎる私のグループでしたが、メンターの方、特に私達の担当だったメンターの方には飛び交いすぎた意見をまとめて外れてしまっていた軌道を戻してくれて、意見が見える化してくれて、夜遅くまで電話に付き合ってくれて、一緒に考えてくれて、感謝すべき点ばかりで足りないところなど何一つ感じられませんでした。



主催者コメント

How much can one grow in just five days? I would have said “not much” had I not actually witnessed the remarkable growth of the young participants in such a short span. If I were to explain why they were able to grow so quickly, I would say it was because we provided the right stimulation, the right context, and the right questions to spark their thinking.

This was my second time participating in the camp. Unlike last year, when I was still Vice President, my current responsibilities as President prevented me from taking part as fully in this year’s program. I met all the participants on the first day, when I delivered the keynote address, and again on the final day, when I listened to their presentations. I admit that I asked some difficult questions — and if I were to offer an excuse, it would be that I forgot they were still junior high and high school students! Yet they rose to the occasion, tackling my questions with honesty and earnestness. As is often the case with top students, they came with a strong foundation built through their studies, extracurricular activities, and more. What truly set them apart, however, was their willingness to step outside their comfort zone, take up the challenge of joining the camp, and make the very most of the opportunity. Seeing the growth they achieved in just a few days makes me all the more excited about the possibilities that lie ahead for them.

わずか5日間で人はどれほど成長できるのでしょうか。以前の私なら「たいして成長はできない」と答えていたかもしれません。しかし実際に、参加者の皆さんがこの短い期間で大きく成長する姿を目の当たりにしました。なぜこれほど急速に成長できたのかを説明するとすれば、私たちが適切な刺激、適切な場、そして考えを促す適切な問いを用意できたからだと思います。

今回が二度目のキャンプ参加でした。昨年は副学長として関わりましたが、今年は総長としての職務があり、プログラム全体に十分に参加することはできませんでした。初日に基調講演で皆さんにお会いし、そして最終日には発表を聞かせていただきました。私はつい難しい質問を投げかけてしまいました。言い訳をするなら、中高生だということを忘れていたからなのですが、それにもかかわらず参加者の皆さんは真摯に、誠実に応えてくれました。

優秀な学生に共通しているのは、学業や課外活動などを通じて培われたしっかりとした基盤を持っていることです。しかし、今回参加者の皆さんで際立っていたのは、自分の慣れた枠を超えてキャンプに挑戦し、その機会を最大限に活かそうとした姿勢でした。

この経験を糧に、今後さらに成長していく参加者の皆さんの姿を楽しみにしています。

Diana KHOR 法政大学総長 グローバル教養学部教授

ハイライト動画のQR

Click!



【ご連絡先】

法政大学グローバル教育センター事務局国際交流課

03-3264-9662

ic@hosei.ac.jp